

大学キャンパスのタバコ対策に関するアンケート調査  
-男女学生の比較-

受動喫煙  
分煙

アンケート調査  
敷地内全面禁煙

AJ13082  
指導教員

堀井 拓真  
西村 直也



1. 概要

近年、分煙や受動喫煙に対する関心は高まっており、大学においても敷地内全面禁煙や完全分煙などの対策が必要になった。そこで本研究では、大学における喫煙対策の把握、現状での問題点の傾向の把握、今後の大学のタバコ対策の検討、男女の性別での比較を目的として比較的男性の多い工学系大学と女子大学を対象にアンケート調査を実施した。その結果、工学系大学と女子大学で抱える問題量、今後の対策法が異なることが分かった。

2. 目的

近年、分煙や受動喫煙に対する関心は高まってきており、各種の法令や条例が施行され分煙対策が進められている。2003年の健康増進法施行以降、不特定多数の者が利用するような場所では受動喫煙防止の措置が施設管理者に義務付けられている。大学においても敷地内全面禁煙や完全分煙を行っているが、実際にすべての学生、教職員がルールを守っているとは言えず、問題も数多く発生していると考えられる。また、男女の性別によつての喫煙率の変化や社会的な立場の変化が変わってきている。

本研究では男子学生が多いと考えられる工学系大学と女子大学における喫煙対策を把握し、現状での問題点の傾向を明らかにして今後の大学のタバコ対策のあり方を検討することを目的としてアンケート調査を実施した。

3. 手法

今回のアンケート調査は、工学系大学 59 校、女子大学 72 校、計 131 校を対象に行った。アンケート用紙を郵送にて送付し、同封した返信用封筒に入れて返送してもらう形で実施した。回答期限は回答者の手元に届いてから 1 週間以内を目処とした。複数のキャンパスを有する場合は最も在籍者が多いキャンパスについて回答してもらう事とした。問2においてキャンパスの喫煙対策を答えてもらい、「敷地内全面禁煙」と答えた大学には問3を、「完全分煙」、「その他」と答えた大学には問4, 5, 6, 7をそれぞれ答えてもらうものとした。また、問3, 5, 6は複数回答可とした。アンケートの概要を表1に示す。

表1 アンケート概要

問1	貴キャンパスの面積はどの程度ですか。 1. 5,000㎡以下 2. 5,000~10,000㎡ 3. 10,000~50,000㎡ 4. 50,000㎡以上
問2	貴キャンパスにおける喫煙対策について御回答ください。 1. 敷地内全面禁煙 2. 完全分煙(敷地内に喫煙できる場所がある) 3. その他
問3	敷地内全面禁煙にしたことで発生した問題は何かありますか。(複数回答可) 1. 敷地外で喫煙する人が増えて歩行者や住民など周辺に迷惑がかかる 2. ルールを守らず敷地内で喫煙したり、灰皿をなくしたことによって吸い殻のポイ捨てが増える 3. 喫煙する学生や教職員からの反対がある 4. その他
問4	現在の喫煙所の数は何カ所ですか。 1. 3カ所以下 2. 4~10カ所 3. 11~50カ所 4. 51カ所以上
問5	現状での喫煙所や喫煙マナーの問題点は何かありますか。(複数回答可) 1. 喫煙所以外での喫煙 2. 吸い殻のポイ捨て 3. 非喫煙者が受動喫煙の被害を受ける可能性がある 4. 周りの住民などからの苦情 5. その他
問6	敷地内全面禁煙にできない理由や実施する上での課題があれば御回答ください。 1. 敷地外で喫煙する人が増えて歩行者や住民など周辺に迷惑がかかる 2. ルールを守らない恐れがあり、かえって吸い殻のポイ捨てや火事が心配 3. 喫煙する学生や教職員からの反対 4. 敷地が広大である 5. その他
問7	貴大学における今後のタバコ対策の方向性があれば御回答ください。 1. 敷地内全面禁煙にする 2. 喫煙所の数を減らしていく 3. 現状を継続 4. 喫煙所の数を増やしていく 5. 特に決まっていない

4. アンケート調査結果

4.1 現状の喫煙対策について

比較すると敷地内全面禁煙と回答した割合が工学系大学の7%という結果に対して、女子大学が45%となった。

4.2 敷地内全面禁煙について

設問3の集計結果を図1に示す。敷地外での喫煙が増えて歩行者や住民などに迷惑がかかると回答した割合が工学系大学は67%という結果に対して女子大学は38%と低く、ルールを守らずに敷地内で喫煙したり、灰皿をなくしたことで吸い殻のポイ捨てが増えるという回答した割合も工学系大学より女子大学の方が17%低い結果になった。

しかし、工学系大学では何かしら問題が起きているのに対して、女子大学では約3割は特に問題なしとなった。

4.3 現状での問題点について

設問5の集計結果を図2に示す。比較すると現状での喫煙所や喫煙マナーの問題点として喫煙所以外での喫煙を問題としている割合が工学系大学27%で女子大学15%、吸い殻のポイ捨てを問題としている割合が工学系大学35%で女

子大学12%と工学系大学の方が現状の問題点が多かった。さらに、女子大学では特に問題なしがほぼ半数を占めた。

#### 4. 4 今後のタバコ対策について

設問7の集計結果を図3に示す。比較すると今後のタバコ対策の方向性は工学系大学が約3割、敷地内全面禁煙にする、喫煙所の数を減らしていくといったこれからのキャンパス内の喫煙をなくそうとする方向性を持つ学校があるのに対し、女子大学は約1割だけだった。

#### 5. まとめ

本研究では現状での問題点を明らかにして今後の大学のタバコ対策のあり方の検討を行った。その結果、得られた知見を以下に示す。

<工学系大学>

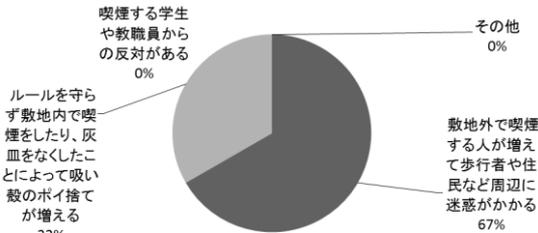
- ① 現状、多くの問題が懸念されていた。喫煙所以外での喫煙が日常的に行われていて周りの人も黙認しているか気にならなくなっているのではないかと考えられる。
- ② 問題が多いため、中々敷地内全面禁煙に踏み切れず、まずは喫煙マナーを徹底させ問題を少なくさせることが必要であり、次に喫煙所の数を減らして徐々に敷地内全面禁煙にしようとしているのではないかと考えられる。

<女子大学>

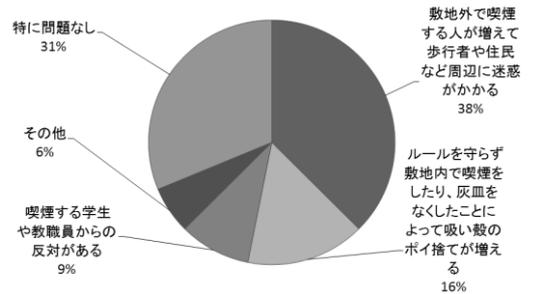
- ① 工学系大学に比べ「特に問題なし」が非常に多かった。女性が多く、モラルや周りに迷惑のかからないようななどの配慮ができる人が多いのではないかと考えられる。
- ② 大学自体、現状さほど問題は起きていないため、大半が現状を維持する方向性になったと考えられる。

今後の課題として、異なるグループ分け調査、他の施設の調査による今後のタバコ対策を検討する必要がある。

問3 敷地内全面禁煙にしたことで発生した問題は何かありますか。(複数回答可)



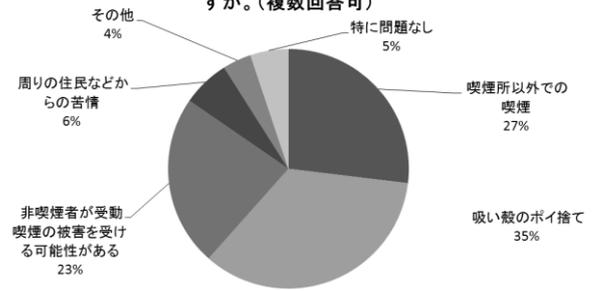
<工学系大学>



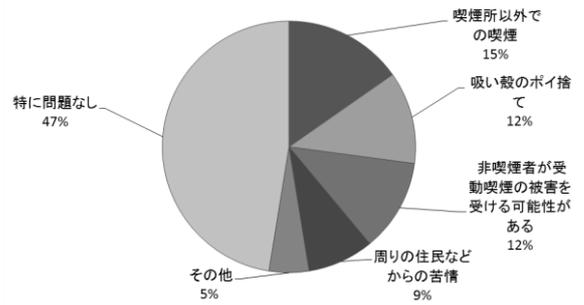
<女子大学>

図1 敷地内全面禁煙

問5 現状での喫煙所や喫煙マナーの問題点は何かありますか。(複数回答可)



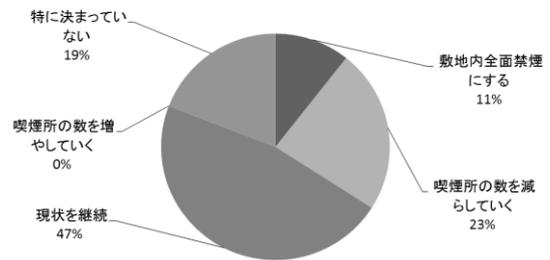
<工学系大学>



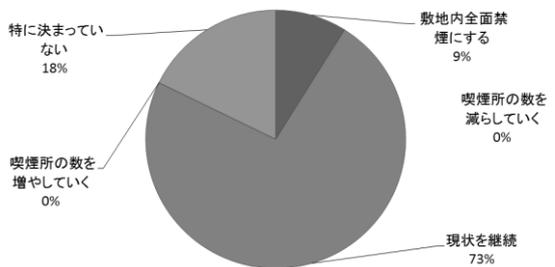
<女子大学>

図2 現状での問題点

問7 貴大学における今後のタバコ対策の方向性があれば御回答ください。



<工学系大学>



<女子大学>

図3 今後のタバコ対策

#### 参考文献

- 1) 石井 達朗：大学キャンパスのタバコ対策に関するアンケート調査 (2009年)
- 2) 中野 俊介：地方大学における喫煙状況 (2010年)